



ピッパの法則・GO！の法則

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

充実した年末・年始は過ごせましたか？後期後半がいよいよスタートします。進級・卒業に向けたこの残り約3ヶ月間は、今年度学んだこと、実践したことの集大成であり、来年度に向けた準備期間だと思います。

今年度の集大成。来年度への橋渡しとなる後期後半にあなたたちにお願いしたい生徒指導テーマは『大中ブランド』のクオリティ（質）を上げるということです。『大中ブランド』はこれまで生徒会執行部が中心となって、呼びかけを行ってきました。『傾聴・挨拶・時間・掃除』それぞれの意味をしっかり考え、行動してくれている生徒。とても素晴らしいです。

例えば、職員室に入ると、「〇年〇組の〇〇です！〇〇を先生に用がってきました。入ってもいいですか？失礼します、おはようございます！」と大きな声で気持ち良く挨拶してくれる生徒は印象に強く残ります。「〇〇さんの挨拶はとても気持ち良いね！」「授業中もよく頑張っていますよ！」と話題になり、応援したい人になります。

しかし、『大中ブランド』を継続しない人、実践しない・しようとしている人も少なからずいます。「する」・「しない」、「続く」・「続かない」は最終的に意識の差（個人の気持ちの持ち様）だと思います。

教育学者の森信三先生は以下のような言葉を言われています。

「やらないうちに分かったという分かり方は浅い」

要するに、「良いということが分かったらやります」と言っている人は、一生できない。まずやってみなさい、ということです。実践せずにいくら考へても、良いか悪いかは分かるはずがないと思います。今回は年末に読んだ「時間最短化、成果最大化の法則」（著者 木下勝寿 ダイヤモンド社）から印象に残ったところを2つ引用させていただきます。

○「行動量が10倍アップするピッパの法則」

成功している社長はアイデアを10個思いついたら、10個実行していた。自分は10個思いついても、せいぜい1個しか実行していなかった。忙しさからいえば、どう考へても社長の方がよっぽど忙しい。これが当時の私のウイークポイントだった。そこで成功している社長たちに「なぜすぐに行動できるのか」聞いてみた。

「ピッと思いついたらパッとやるんだ。君と話をしていて、こんなことをやったら面白いと感じる。君が帰った瞬間にやる。それだけだ。」

やるべきことがおこったとき、後でやろう、いつかやろうではなくて、その場でやるか、すぐできない場合はいつやるかをその場で決めてスケジュール帳に書き込む。

それ以来、私は「ピッパの法則」を実践し始めた。簡単なものはパッと実行！そうでないものは「いつやるか」パッとすぐ決め、スケジュール帳に書き込む。すると1日10個アイデアが思いついたら10個全部実行できるようになった。以前は10個思いついても1個しか実行できなかつたから、行動量は10倍になった。

○「めんどうくさければGO！の法則」

絶対に成功できる唯一の方法がある。それは「他人にはできないこと」をやること。だから成果を上げる人は、常に他人にはできないことを探す「思考アルゴリズム」を持っている。

「他人にはできないこと」というと、「難易度が高いこと」と思うかもしれない。だが、もう一つ、「他人にはできないことがある。「めんどうくさいこと」だ。

「難易度が高いこと」と「めんどうくさいこと」の両方ができれば大成功するが、めんどうくさいことができるだけでも成功する。成果を上げる人は、めんどうくさいを見つけたとき、「これは絶対に他の人はやらないだろう！」と嬉しくなる。だまされたと思って実行した人だけが魔法を手に入れられる。

行動することに自信がない人は是非参考にしてみてください。3年生は入試がいよいよ近づいてきました。試験会場や進路先で「応援される人」になるためにも、『大中ブランド』のクオリティ（質）を上げてほしいと思います。

また、1・2年生も大津中学校の良い伝統を受け継ぎ、来年度以降にも引き継いでほしいと思います。あなたたちにとって実りある2025年になることを願っています。